―論　文―

乳児保育における現状と課題
― 保育者のアンケートを手がかりに ―

Current state of and issues in infant childcare
― In light of a survey of childcare workers ―

石　川　恵　美*

（平成31年１月23日受理）

要約

本稿では、私立保育園・認定こども園に勤務する保育者（以下、保育士・保育教諭を含めて保育者とする）を対象に質問紙調査を実施し、乳児保育の実際を抽出し、現状と課題を探った。

乳児保育の現状としては、保育の活動のレパートリーが少なく、保育の展開が困難である様子が見て取れる。また保育者は、保護者対応及び保育者間の連携方法について試行錯誤しているといった現場の様子も回答から窺えた。従って、保護者対応、保育者間連携の具体的な方法等を検討していく必要がある。

現職の保育者が、今考え感じていること等を調査し、今後の課題となることについて若干の考察を試みた。

キーワード：乳児保育、保育者、連携
keywords ：Infant Childcare, Childcare Worker, Cooperation

１．はじめに

2018年に改定された「保育所保育指針」において、乳児・１歳以上３歳未満児の保育に関する記載が充実された。「乳児から２歳児までは、心身の発達の基盤が形成されるうえで極めて重要な時期である。また、この時期の子どもが、生活や遊びの様々な場面で主体的に周囲の人やものに興味をもち、直接関わっていこうとする姿は、「学びの芽生え」といえるものであり、生涯の学びの出発点にも結び付くものである」[1]と明記されている。その乳児保育を支える保育者は、乳児保育をどのように捉え、日々保育を行っているのだろうか。乳児保育の現状と課題を探ってみたい。

※「乳児保育」とは、３歳未満児を念頭においた保育を示す。

２．研究目的

現職の保育者が、「乳児保育」の実際をどのように捉え、どのような問題を抱えているのかを探求し、今後の課題を見出すことである。

３．研究方法

質問紙調査

⑴　**調査日**：平成30年９月

⑵　**調査対象者**

私立保育園・認定こども園に勤務する保育者79名

平均勤続年数：10.03年

経験年数：１年～39年

〈内訳〉

１年未満	５名	６～10年	15名
１年	５名	11～15年	13名
２年	８名	16～20年	７名
３年	６名	21～25年	10名
４年	７名	26～30年	０名
５年	１名	30年以上	２名

（＊いしかわえみ　保育科准教授　保育学・幼児教育学）

⑶　回収率

100％（研修会終了後、回答していただき回収した）

⑷　調査項目

1	０歳児クラスの保育で大変だと思うこと
2	１歳児クラスの保育で大変だと思うこと
3	２歳児クラスの保育で大変だと思うこと
4	乳児保育を行う際気を付けていること
5	乳児保育を行う際の問題点
6	保育者間の連携で大変だと思うこと
7	乳児保育の保護者対応で難しいと思うこと
8	今後、乳児保育を担当したいと思うか

上記８項目の質問紙調査を実施した。それぞれの項目で、あらかじめ設定した回答に印を付けていただいた。また、それぞれの項目において「その他」を設け自由記述ができるようにした。

⑸　倫理的配慮

本調査は、無記名での回答であり、回答から個人を特定することはできない。調査用紙配布の際に、口頭でも説明し了解を得た。

４．結果と考察

⑴　０歳児クラスの保育で大変だと思うこと

「０歳児クラスの保育で大変だと思うことは何ですか？」という問いに対して、上記の結果を得た。０歳児クラスの保育では、「活動のレパートリーが少ない」「保育の展開」が上位に挙げられた。０歳児は、集中できる時間が短く、歩行や言葉でのコミュニケーションが確立していないため、保育内容が限られることが要因であることが推察される。

０歳児は、養護面での保育が中心であることから、上記のような結果になったことが窺える。０歳児の活動のレパートリーを増やしていくことが保育の充実につながるのではないかと感じた。

大方（2009）は、０歳児の指導案と保育のポイントとして「保育者は、集団保育の中で、クラスとしての１日の流れと、ひとりひとりへの対応や育ちのバランスを、どのように工夫していくかが問われる」[2]と述べている。生活のリズムを整えた上で、０歳児に無理のない活動を計画することが重要である。

「その他」では、「月齢差での生活の差」が挙げられた。０歳児は、前半と後半では発達に大きな違いがあり、高月齢と低月齢では保育内容や生活

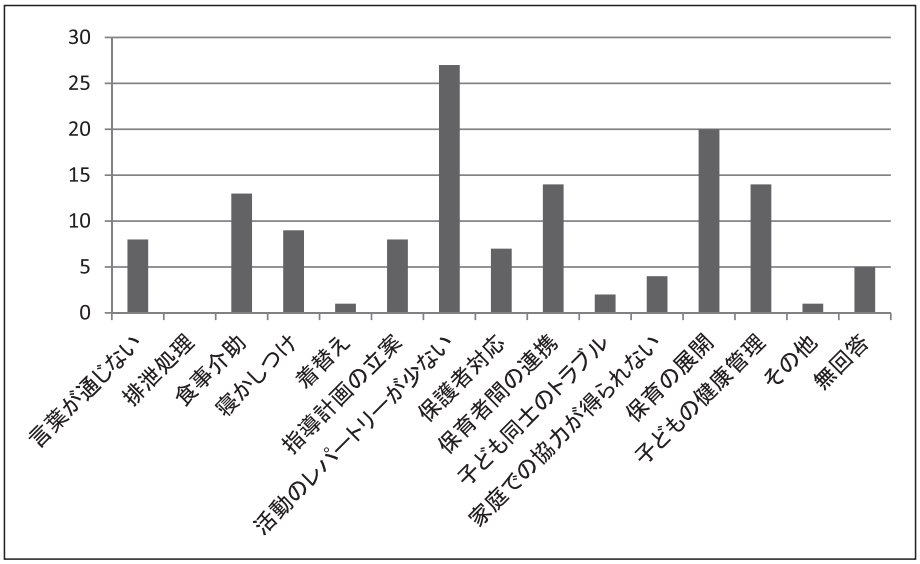

図１．０歳児の保育で大変だと思うこと（複数回答可）

ペースの工夫が必要なことから記述されたものと思われる。

⑵　１歳児クラスの保育で大変だと思うこと

「１歳児クラスの保育で大変だと思うことは何ですか？」という問いに対して、上記の結果を得た。１歳児クラスの保育では、「子ども同士のトラブル」が突出して挙げられた。１歳児クラスの子どもは、歩行が安定し活動範囲も広がり、探索行動が盛んになる反面、他児への興味も出てトラブルに発展するケースが多く見られる。１歳児の発達の特徴を表している結果となった。

森本ら（2012）の研究によると、「１歳児クラスの午前９時から12時までの時間帯における保育室内が最もトラブル発生のリスクが高いという予測が成り立つ」[3]ことが分かった。

排泄処理の項目が少ないのは、発達年齢から考えて、トイレトレーニング中は、当然の援助であると捉えての結果と推察される。次いで、「食事介助」が大変だとの回答が多かった。離乳食は完了し、幼児食に移行すると偏食が現れるケースも少なくない。自分で食べたい気持ちが先行し、食べこぼしも多くなる時期であることから、食事介助においても配慮が必要だということであろう。

「それまでの人間関係から安心感を獲得した子どもは、他者への興味・関心が出てくる時期であり、人との関係性の育ちをどのように見通していくかは、集団において、保育者の実態の観察や配慮が大切になる」[4]との先行研究においても、１歳児の発達の特徴を捉えている。他者に興味・関心が出てくるということは、その分トラブルも付きものである。トラブルを経験しながら、人間関係を学ぶ側面があるものの、怪我や事故に発展するようなトラブルは避けなければならない。１歳児クラスを担当する保育者は、子ども同士の関わりが多くなることを喜ぶ一方、トラブルに細心の注意を払う必要があろう。

「その他」の意見では、「遊びの充実」と「噛みつき事故」の記載があった。

⑶　２歳児クラスの保育で大変だと思うこと

「２歳児クラスの保育で大変だと思うことは何ですか？」という問いに対して、上記の結果を得た。１歳児クラスと同様に、子ども同士のトラブルを挙げる保育者が多かった。

子ども同士での交流が盛んになり、接触の機会

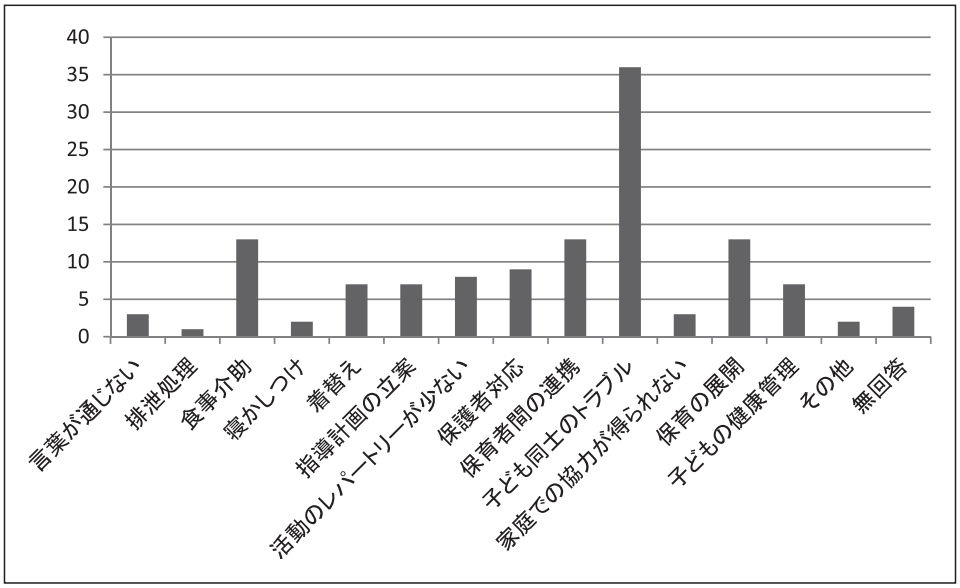

図２．１歳児クラスの保育で大変だと思うこと（複数回答可）

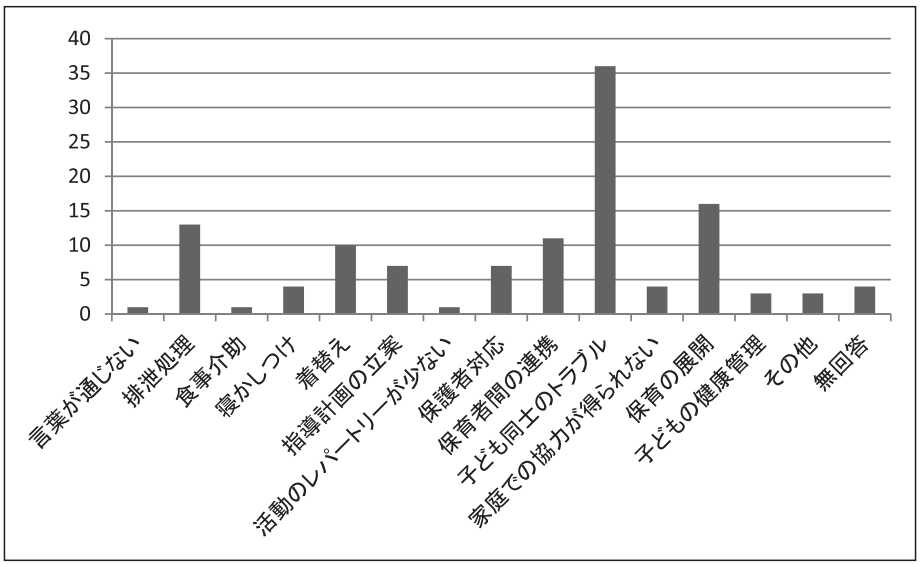

図３．２歳児クラスの保育で大変だと思うこと（複数回答可）

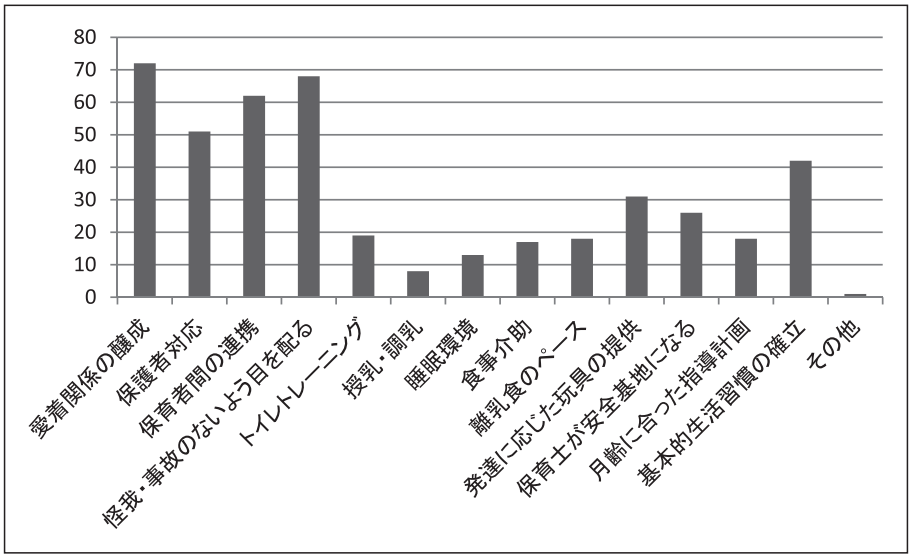

図４．乳児保育を行う際気を付けていること（複数回答可）

が増えるとトラブルも多くなる。言葉でのやりとりが不十分であったり、生活や遊びのルールが理解できていない場合は、ケンカに発展する。子ども同士での関わりの中から、人間関係を学び取っていく。すべてに保育者が介入せず、見守ることも必要である。その頃合いの見極めは難しい。そのような思いからの回答だと見受けられた。

「その他」では、「発達段階の差」と「気になる子に手がかかり、他の子が後回しになってしまう」という意見もあった。

⑷　乳児保育を行う際気を付けていること

「乳児保育を行う際、気を付けていることは何ですか？」という問いに対して、上記の結果を得

た。「愛着関係の醸成」「怪我・事故のないよう目を配る」「保育者間の連携」「保護者対応」が上位を占めた。いずれも乳児保育において重要な要素である。大人の手が必要な時期であるが故に、安心安全な環境において複数の目で見守り、愛着関係を育むことを重要視している表れであろう。乳児保育を担当する保育者が、これらの項目を意識して保育にあたっていることが窺えた。

乳幼児期の愛着関係が重要であることは言うまでもないが、子どもが保育者を信頼し生活を共にできるよう配慮している様子を感じた。それは一人の保育者だけでできることではなく、保育者間の連携を図り園全体で子どもと保護者を支えようとしている思いの表れではないだろうか。

「その他」では、「一人ひとりの様子に合わせた環境の整理」が挙げられた。

⑸　乳児保育を行う際の問題点

「乳児保育を行う際の問題点は何ですか？」という設問に対して、上記の結果を得た。「図４．乳児保育を行う際気を付けていること」と同様に、「愛着関係の醸成」「怪我・事故のないよう目を配る」「保育者間の連携」「保護者対応」が上位に挙がった。「乳児保育を行う際気を付けていること（図４）」と「乳児保育を行う際の問題点（図５）」の上位が共通しているということは、乳児保育を行うに際し、保育者が重要なことと捉えていると言えよう。

「怪我・事故のないよう目を配る」ことは、乳児保育において至極当然のことであるが、それが問題点に挙がるのは「ヒヤリハット」することが日常的にあるのではないだろうか。兵庫県保育協会の調査[5]によると、159園から提供されたヒヤリハット事例のうち、遊具・玩具など207件、食物アレルギー202件、誤嚥・誤飲など185件の報告があった。保育者が目を配っていても、危うく怪我・事故につながることもあろう。その実感からの回答だと推測される。

⑹　保育者間の連携で大変だと思うこと

「保育者間の連携で大変だと思うことは何ですか？」という問いに対して、上記の結果を得た。「言葉の取り違え」「共通理解が図れない」を挙げる保育者が多かった。複数担任であるが故に、互いの認識が違ったり、言葉のニュアンスが伝わらないことを感じることがあるということであろ

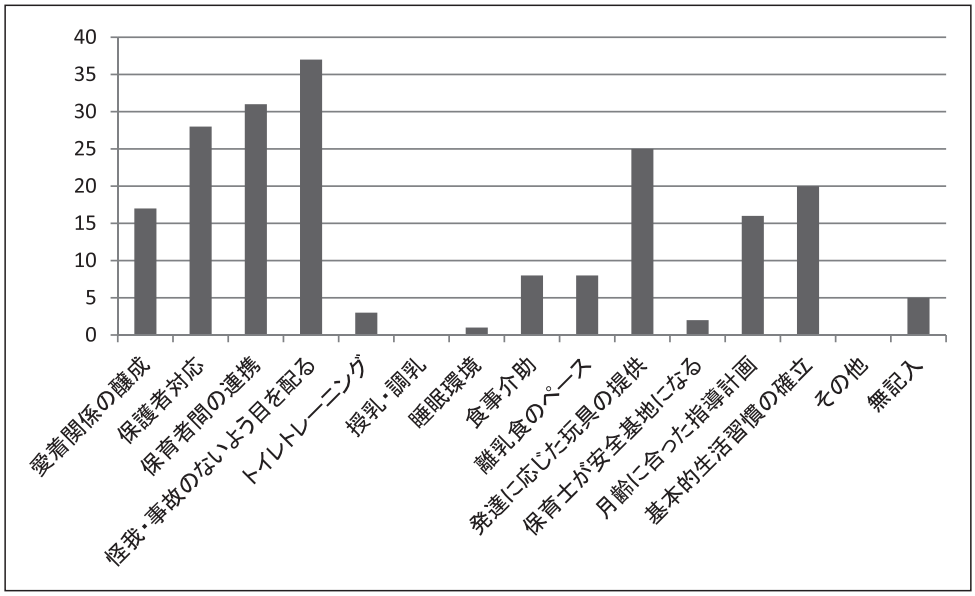

図５．乳児保育を行う際の問題点（複数回答可）

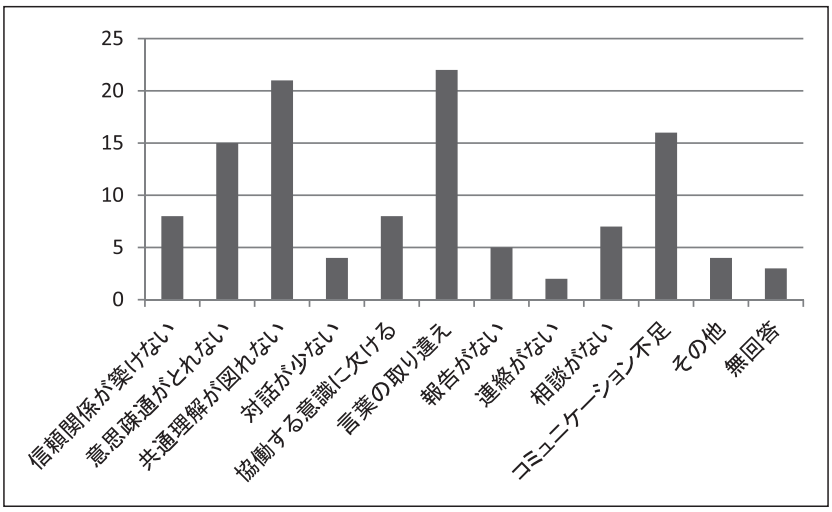

図６．保育者間の連携で大変だと思うこと（複数回答可）

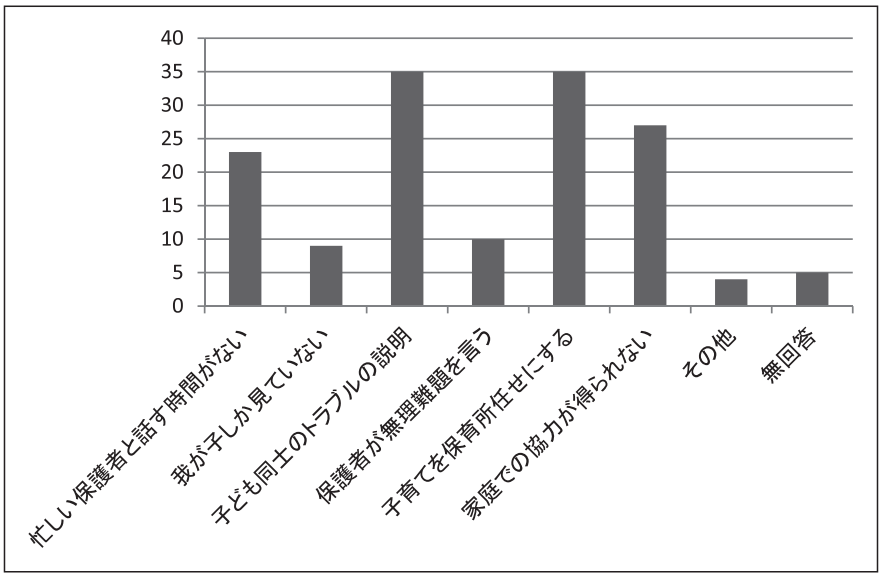

図７．乳児の保護者対応で難しいと思うこと（複数回答可）

う。子どもから目を離せず、打ち合わせの時間の捻出も難しく、思うように保育が進まないことを意味しているのであろう。

複数担任ならではの苦悩が浮かび上がった。上記の結果を踏まえ、どのように改善していくかを検討する必要がある。いずれも複数担任では不可避の事案であり、まずは問題点を挙げ、保育者間の話し合いを持ち保育に活かすことが求められる。

「その他」では、「年齢差からくる価値観の相違」や「その日によって態度が違う」等の意見の一方、「今のところうまくいっているので、特にない」との意見もあった。

⑺　乳児保育の保護者対応で難しいと思うこと

「乳児の保護者対応で難しいと思うことは何で

すか？」という問いに対して、上記の結果を得た。各保育者が日々の保護者対応において、難しいと思っている項目に回答していると思われる。

保護者対応と一口に言っても多種多様である。保護者が求めていること、保育施設としてできることとできないことを明確にする必要があろう。その上で、信頼関係を築き、保育者と保護者が手を携えて子どもの成長を見守るためにはどうすれば良いのかを一緒に考えていく必要がある。

「その他」では、「育休明けで家庭と仕事の両立が難しく、不機嫌になったり、ルーズになりがち」「偏食・小食に対して非協力的」「体調不良でも登園させ、急変電話をすると怒る」等リアルな意見がある一方、「特に大きいトラブルはない」との意見もあった。

「保育所保育指針」においても、「子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるように配慮すること」[6]と明記されている。言葉の獲得が十分ではない乳児クラスの子どもの日常を、保護者に伝えることは保育者の役割の一つである。保護者の生活や性格を理解した上で、子どもにとって必要なことを伝達することは難しい面もあるが、それをコミュニケーションと捉え一人一人に応じた対応が求められる。

⑻　今後、乳児保育を担当したいと思うか

「今後乳児保育を担当したいと思いますか？」の問いには、１名の無回答以外すべて「はい」であった。その理由は、「やりがいを感じそうだから」が一番多く全体の34％を占めた。乳児保育は大変なこともあるが、やりがいを感じそうだから担当したいという保育者の思いが窺えた。

「その他」では、「今まで幼児クラスばかりで、乳児との関わりが少なかったので」「０・２歳を担任して、やりがいを感じているから」「何歳でも良い」「好きだから、成長が楽しく嬉しいから」「学びはじめた担当制保育を深めていきたい」「１人１人の成長がすごく見られるから」との建設的な意見も出された。

乳児保育は養護の側面も大きく、保育者の援助・配慮が求められるが、それを理解した上で、成長する子ども達に寄り添いたい気持ちの方が勝るのだろう。目に見えた成長を共に喜べることは保育者のやりがいとなり、乳児保育への意欲につながるのだと感じた。

５．おわりに

現職の保育者が、乳児保育の実際をどのように捉え、日々保育にあたっているのかが明らかになった。サンプル数も少なく、乳児保育のすべてに当てはまるわけではないが、現職の保育者自身

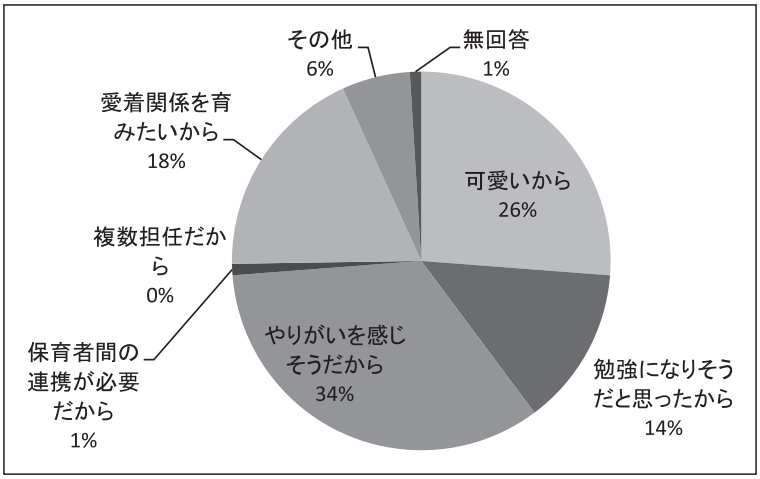

図８．今後乳児保育を担当したい理由（複数回答可）

の思いや考えの一端を見出すことはできたのではないだろうか。

乳児保育の活動のレパートリーを検討したり、保護者対応及び保育者間の連携方法を検討していく必要がある。

本研究では、6％の新任保育者が含まれている。須永（2018）は、「新任保育者へサポートを行っているからよいというわけではなく、その内容が新任の保育者のニーズに応じたものになっているかに目を向ける必要がある」[7]と述べている。新任保育者が、今後乳児保育を担っていきたいと思えるようなサポートも考えなくてはならない。

今回の調査は、研修会に参加した保育者を対象にしたが、「乳児保育担当経験者」「各年齢で実際に担任したのか」という詳細な区分のものではなかったので、さらに区分を細かくした質問紙調査を実施したい。また、乳児保育担当者に聞き取りをし、より具体的な乳児保育の現状と課題を探ってみたいと考える。

乳児保育の課題と言えば、待機児童問題や保育士不足等が挙がるだろう。しかし、それだけではなく、実際に乳児保育担当者がもつ課題を検討することにも今後着手していかなければならない。

また、保護者対応や保育者間の連携も不可欠である。いずれも、乳児保育にはなくてはならない重要な要素である。保育者自身もそのことは十二分に理解していることが分かった。その具体的な方法を構築していくことが、喫緊の課題であると考える。

謝辞

本研究の調査にご協力いただきました保育者の方々に心より感謝申し上げます。

〈脚注〉

1　厚生労働省（2018）保育所保育指針
2　大方美香（2009）乳児保育における保育の計画，大阪総合保育大学紀要，４．140
3　森本信也他（2012）乳児保育におけるトラブルの要因とその解決に関する研究，保育科学研究，３．55
4　前掲（２）．140
5　保育所におけるリスク・マネジメント　ヒヤリハット／傷害／発症事例報告書，兵庫県・公益財団法人兵庫県保育協会，2014
6　厚生労働省（2018）保育所保育指針
7　須永美紀（2018）新任保育者へのサポート体制に関する一考察　―保育者へのアンケート調査を通して―，こども教育宝仙大学紀要，9(2)．45